

WORLD FINE WINES

Wine Brokerage & Education Services

極めて大雑把な言葉である。還元臭の実体を知って、初めて還元臭の意味を理解することができる。

世界のワイン界では、日本語で言う『還元臭』という語句はあまり使われない。『還元』は、英語では reduction (リダクション) という。ちなみに『酸化』は oxidation (オキシデーション) という。

ワインが還元的な環境におかれたときに発生する各種の臭いを総称して reduction odors (日本語に直訳すると還元臭となる) という語句が存在するが、・・・

・・・一言で還元臭といっても、その中にはいろいろな種類の物質が存在し、発する臭い成分も異なり、その発生機序もさまざまであることから、何でもかんでも還元臭でひとくくりするのは、その本質の理解を妨げるおそれがある。重要なことは、還元臭といわれる臭いの中身を知ることである。

・・・しかし、硫化水素は低レベルの発生であっても不快臭として認知され、ワインにおいては放置できない物質である。その臭いの一般的な表現は、・・・

・・・この硫化水素の発生を放置すると、さらに別の物質が生成されていく。硫化水素自体は反応しやすい気体で、ほかの物質と反応して、別の物質を生成していく。ワインの場合は、・・・

・・・以上見たように、ひとくちに『還元臭』といっても、その中身物質はさまざま存在し、それぞれにおい検知においては異なった性格の臭いを発することがわかる。したがって、還元臭という場合は、どの要素のどの臭い成分が出ているのかを見分けていく必要がある。

・・・そもそもなぜ硫化水素がワインに発生するのであろうか。ワインに硫化水素が発生する理由は、いくつかその原因を挙げることができる。いずれにしても、硫化水素 (H₂S) の発生の根源には、硫黄 (イオウ) の存在が必要となる。まず知っておかなければならないことは、・・・

・・・しかしながら、その臭い成分の存在が、ワインにとって完全に否定されるべきかどうかは議論が分かれるところである。それは、・・・

・・・しかし、それらを導入してみると、必ずしも良いことばかりではないことも実証されだし、今ではコルクテイントの解消ということだけではなく、全体としてどのタイプの栓がワインの品質保持に優れているのかという議論に移っている。・・・

・・・そのワインの臭い表現で、『ビオ臭』なる言葉が聞かれるようになっていく。おそらくビオダイナミで造られたワインから発せられる臭いという意味であろうが、『ビオ臭』というのは全く意味不明の用語である。またこうした用語は世界のワイン界にはなく、日本のワイン流通界固有の用語である。・・・

・・・いわゆるビオ臭と呼ばれる臭いの正体は何であろうか。これは、何を持ってビオ臭といっているのか、・・・

・・・その意味で、二酸化イオウがワインに果たす役割とその功罪をきちんと知ること、ワインのプロフェッショナルにとって重要なことである・・・